

日本被団協、ノーベル平和賞受賞

田中熙巳代表委員が受賞演説の最後に 「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」に言及

〈田中熙巳さんのノーベル賞受賞講演の最後の部分〉

一つ大きな参考になるものがあります。

それは、日本被団協と密接に協力して被団協運動の記録や被爆者の証言、各地の被団協の活動記録などの保存に努めてきました、NPO 法人の「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」の存在であります。この会は結成されてから 15 年近く、粘り強く活動を進めて、被爆者たちの草の根の運動、証言や各地の被爆者団体の運動の記録などをアーカイブスとして保存、管理してまいりました。

これらを外に向かって活用する運動に大きく踏み出されることを期待いたします。私はこの会が行動を含んだ、実相の普及に全力を傾注する組織になってもらえるのではないかと期待しています。国内にとどまらず国際的な活動が大きく展開して下さることを強く願っています。

実は、この「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」は、2011年に、ノーベル文学賞作家の大江健三郎さんや被爆者の岩佐幹三さん(いずれも故人)らとともに、私・安齋も呼びかけ人として結成に関わった団体で、安齋は現在この「継承する会」の副代表を務めています。ノーベル平和賞受賞講演をされた田中熙巳さんは安齋より8歳年上ですが、50年来の友人で、演説の最後にわが「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」の意義に触れてくれたのはグーでした、



左から岩佐幹三、安齋育郎、大江健三郎(2011年11月25日)

田中熙巳さんは長崎の被爆者ですが、後に東京理科大学で物理学を学び、1960年には東北大学工学部助手、1995年には助教授になりました。われらのフォークダンス・インストラクターの今井秀樹さんは東北大学工学部の卒業なので、きっと東北大学で田中熙巳さんの講義や実験指導を受けたか、少なくともキャンパスですれ違ったりしている筈です。ご縁ですね。



田中熙巳さんノーベル平和賞受賞講演(2024年12月10日)



田中熙巳さんとともに。2015年の7月16日(人類初の核実験の記念日)に安齋は日本被団協に感謝の絵手紙を届けた(2015年7月16日)